

平成29年度

大牟田市議会

議会報告会

(前半)

市制100周年 大牟田市魅力再発見 ～住みよいまちづくりと情報発信～

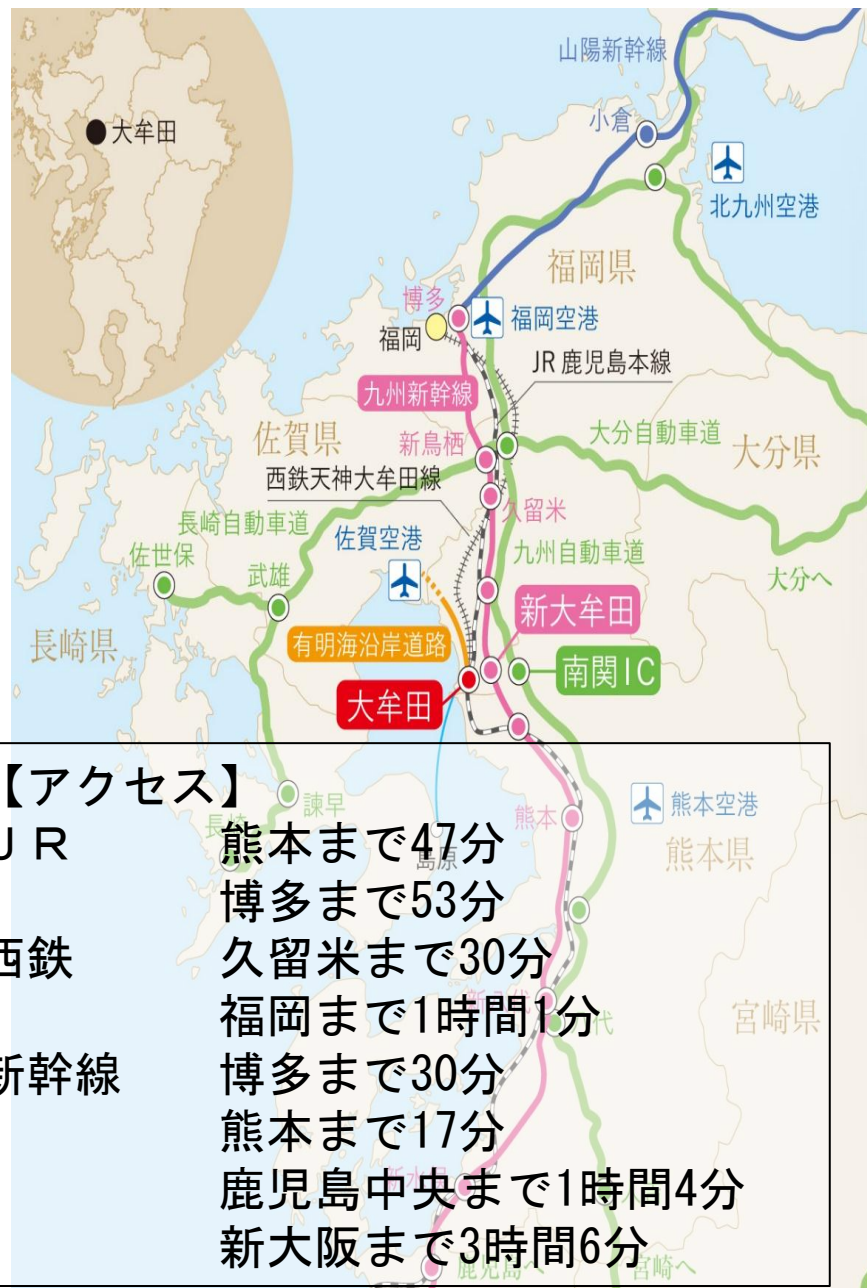


燃えて100年

世界に羽ばたく おおむた



利便性の高い交通ネットワーク



充実した医療機関



大牟田市立病院など
市内には病院・診療所が
100以上！！

保育・教育の充実



保育園………公立1園、私立21園
幼稚園………私立5園
認定子ども園………私立9園
～待機児童ゼロ！～

学校

小学校………市立20校
中学校………市立8校・私立2校
特別支援学校…市立1校
高等学校………県立4校・私立3校
大学・高専………2校

認知症の人とともに暮らすまちづくり ～大牟田市ほっと・安心ネットワーク～



はやめ南人情ネットワークから
全校区へ



安心して
外出できる町へ



大牟田から
全国へ



認知症SOSネットワーク
模擬訓練





三池港



三川坑跡



石炭産業科学館

近代化産業遺産の あるまち



宮原坑

鉄道敷跡



旧三井港倶楽部



おおむたの うまかもん



おおむた・九州うまかもん祭りには、
約25,000人もの方が訪れ、大盛況！！

市民から愛され続ける
動物園



大牟田の
熱い、夏

過去最大の
総踊り！



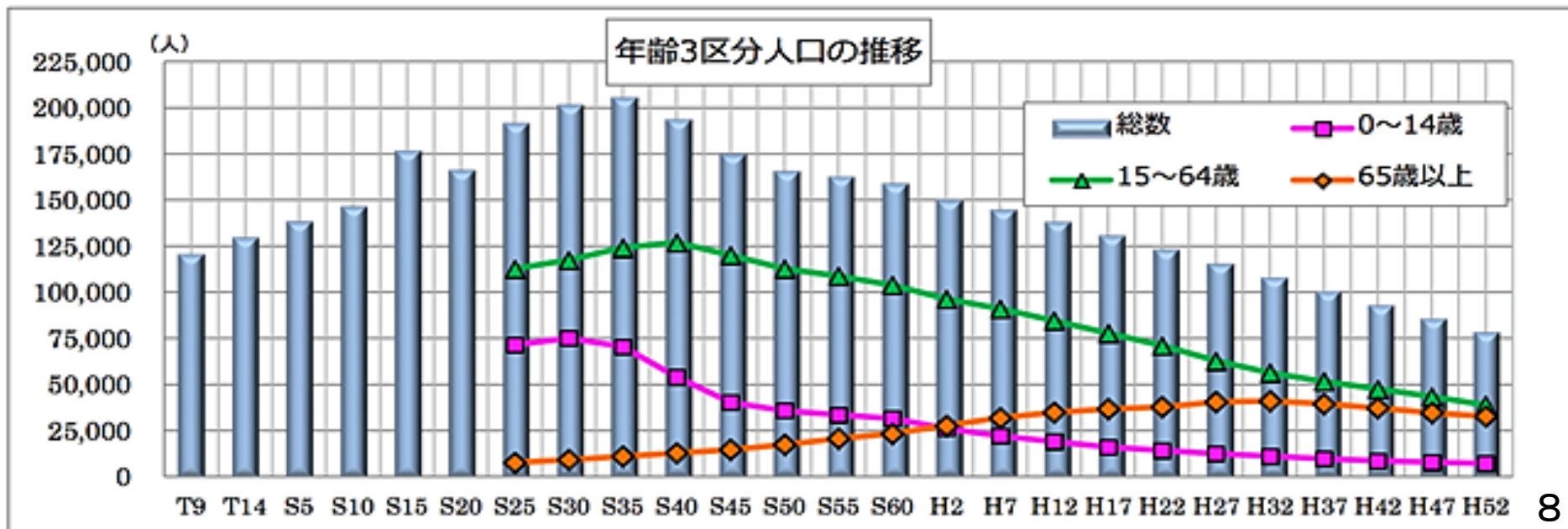
シティプロモーションの必要性

人口問題:S34年208,887人 → H27年117,360人へ(少子高齢化が進行)

知名度やイメージ向上

定住人口の増加や交流人口・移住人口の増加につなげる

大牟田市の人口と推計(国立社会保障・人口問題研究所)



シティプロモーションとは

シティプロモーションとは簡単に言うと

「地域の魅力発掘とイメージ向上を図ること」です。

まちの魅力を発掘・創出し、市内外に発信することで都市の良好なイメージを形成し、地域住民の愛着の醸成、更には自治体の知名度とイメージの向上を図ることであり、近年注目されています。

【シティプロモーションのイメージ】

まちが持つ
魅力の
発掘・創出

文化や自然などの
地域資源

子育て施策や
教育施策等

市民活動や企業活動



市内外への
魅力発信

多様な主体による
情報発信

様々な情報媒体の活用



都市の良好な
イメージの形成

地域住民の愛着の醸成

知名度とイメージの向上

議会のこれまでの取り組み

1. 視察等

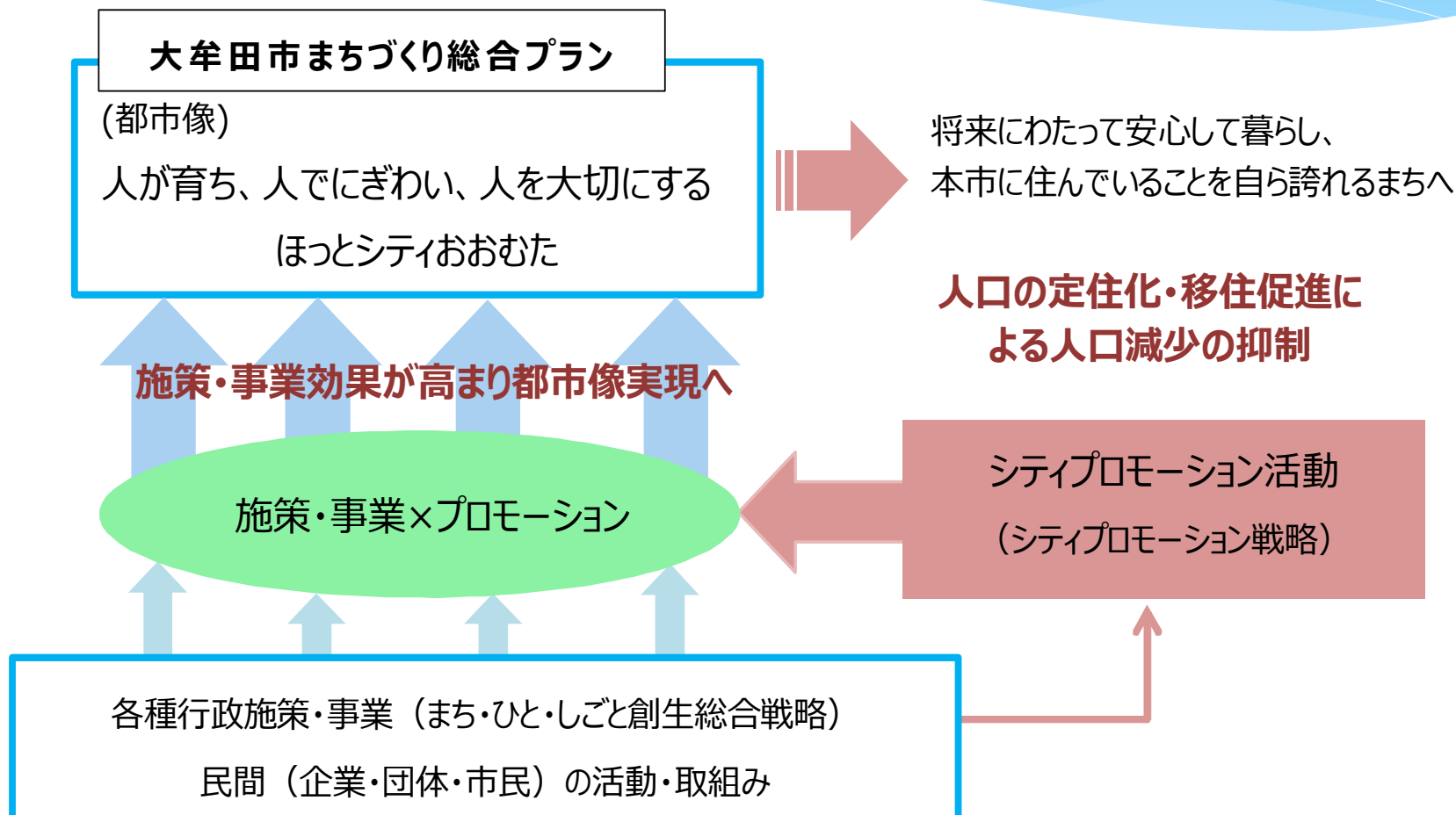
総務委員会 H25静岡県浜松市、H26兵庫県尼崎市、H28埼玉県飯能市など
会 派 等 H27埼玉県戸田市、神奈川県藤沢市など

2. 議会からの提案・要望（抜粋）

- 本市が人口減少による消滅可能性都市に取り上げられている。まちの活力を維持し、少子高齢化問題に対応するとともに、交流人口や定住人口の増加の政策のさらなる推進を。
- 本市は物価が低いなどの住みやすさや災害が少なく安心・安全なまちであること、世界文化遺産などの多くの歴史や動物園があり、公園が多いことなどの居住環境が整っている。また、医療・介護体制が整っている41圏域にも選ばれている。このような魅力を発信すべき。
- 本市はPR不足。キャラクター（ゆるきゃら）やキャッチフレーズなどの市内外の注目を集めるための、情報発信ツールが必要。

シティプロモーションの戦略の位置づけ

「大牟田市まちづくり総合プラン」や人口減少対策に重点をおいた
「大牟田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にシティプロモーションの考え方を取り入れながら推進



調査結果等の概要

調査結果から抽出された本市の強み、魅力と課題を下図の通り整理された。

統計調査	強み・魅力	○1万人あたりの一般病院数、医師数、都市公園数が近隣市町より多い。 ○保育園や幼稚園の待機児童がゼロ。
	弱み・課題	○進学や就職のため、若年層を中心に市外に流出している。 ○国や福岡県に比べて高齢化率が高い。
市民意識調査	強み・魅力	○市民の7割は「大牟田市は住みやすい」と回答。特に80歳以上の8割が「住みやすい」と回答している。 ○今後も大牟田市に住み続けたい理由として最も多いのは「買い物など日常生活が便利」であり、続いて「医療施設が充実している」が多い。 ○大牟田市が自慢できるもので最も多く挙げられたのは大蛇山まつり。
	弱み・課題	○10代のうち、住みやすいと答えたのは3割程度と低い。 ○働く場がない、希望の職業がない。 ○まちに活気が無い。

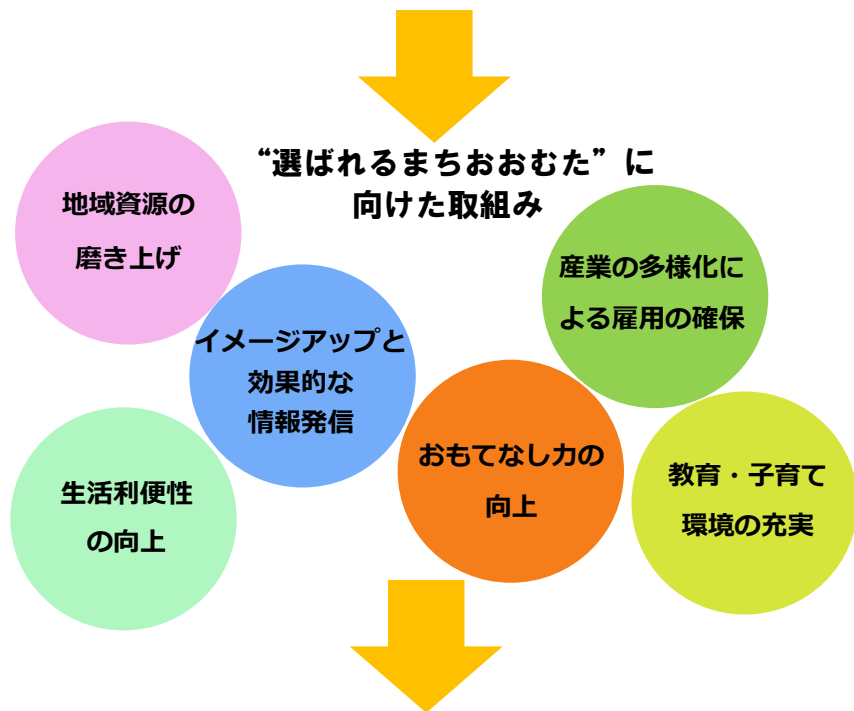
WEBアンケート調査	強み・魅力	○世界文化遺産、動物園、草木饅頭などは市外からの認知度が高い。 ○JRと西鉄、新幹線の停車駅があり、公共交通機関での移動が便利。 ○有明海沿岸道路や九州自動車道のICが近くにあり、車での外とのアクセスが良い。
	弱み・課題	○「暗い・さびしい」「ガラが悪い」などのマイナスイメージがある。 ○市内では認知度の高い「大蛇山まつり」は市外では認知度が低い。
若者ヒアリング調査	強み・魅力	○交通の利便性、世界遺産、大型ショッピングセンターが2つある。 ○世話好きでオープンな人が多い。 ○道路が広く渋滞が無いので、子どもを病院に連れて行きやすい。
	弱み・課題	○知名度の高い企業があるにもかかわらず、地元企業を知らないなど「仕事」の情報が必要な人に届いていない。 ○西鉄・JRの駅が暗い感じがして、まち全体の雰囲気良くない。 ○ガラが悪い人がいる 印象がある。
まちづくり市民会議地方創生実行委員会の意見	強み・魅力	○ラーメンやうどん、お好み焼きなど、安くて美味しい食がある。 ○自然が豊かで気候が良く、台風や地震等の災害が少ない。 ○世界文化遺産、またカルタ発祥の地などの歴史資源がある。 ○市制100周年の歴史がある。 ○創業100周年を超えるような老舗や、日本一のシェアを誇る企業がある。 ○「ESD」を始め、特色ある教育を進めている。 ○医療系の4年制大学や高等専門学校がある。 ○大牟田高校駅伝部など全国レベルの部活動がある。 ○認知症対策をはじめとした福祉事業が充実している。 ○動物園のエンリッチメントの取り組みが認知され広がりつつある。

シティプロモーションの方向性

シティプロモーションで目指すこと

この戦略で目指すこと

市民の大牟田への愛着と誇りの醸成
市外からみた大牟田のイメージと知名度の向上



将来的に目指すこと

市民の将来的な定住（人口減少の抑制）
市外からの移住者の獲得（人口の増加）

シティプロモーションの方向性

生活のしやすさに
つながる魅力

魅力1	便利なまち
魅力2	子どもを育てやすいまち
魅力3	安心なまち

魅力4	歴史があるまち
魅力5	食文化があるまち

大牟田に関心を持つても
らうきっかけとなる魅力

大牟田に対するマイナスイメージの払拭

【大牟田市シティプロモーションの方向性】

「暮らすのにいいまち」ということを発信し
伝えていくことに重点においたシティプロモーション

“選ばれるまち おおむた”の将来像
「暮らすのにいいまち」を軸としたプロモーションにより
新しく行動を起こすときの候補地としてあがるまち

都市イメージによるメインターゲット(主な対象)の設定

3つのキーワード

1. 便利
2. 子育て
3. 安心



PR重点的方向性

- ・生活しやすさにつながる魅力
- ・暮らすために良いまち



選ばれるまち
おおむた

【定住人口の増加】

現在大牟田に住んでいる若者が、住んで楽しいと思えるまち。大牟田に住み続けたいと思ってもらえるよう、若者に向けた情報発信を強化します。

➡ ターゲット：大牟田市在住の若者と若年女性

【移住者の増加】

大牟田にゆかりのある人へ暮らしやすさを前面に打ち出しながら、移住者のニーズに沿った対応を図ります。

➡ ターゲット：大牟田にゆかりのある福岡・熊本両都市圏在住のファミリー

➡ ターゲット：大都市圏に住む九州出身者の夫婦

【交流人口の増加】

将来的には定住してもらうことを意識しつつ、「遊んで楽しい」を伝えながら、大牟田市を「知ってもらう」「訪れてもらう」人を増やします。

➡ ターゲット：福岡・熊本両都市圏の未就学児を育てているファミリー

➡ ターゲット：福岡・熊本両都市圏の「古くてモダンな雰囲気」が好きな人

シティプロモーションの推進に向けて

シティプロモーションサイクルのイメージ

市内 居住者向け

- ・愛着と誇りの醸成
- ・まちづくりへの参加意識の向上

- 大牟田に住み続けたい!!
- 大牟田をアピールしたい!!
【定住人口の増加】

“選ばれるまち おおむた”
の実現

市外 居住者向け

- ・知名度の向上
- ・マイナスイメージの払拭

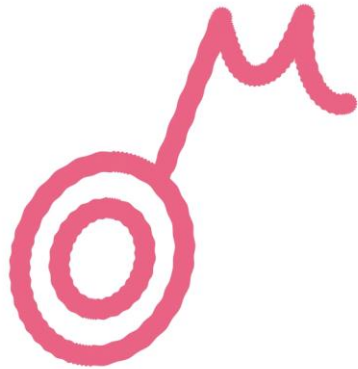
- 大牟田を体験したい!!
- 大牟田に住んでみたい!!
【交流人口・移住者の増加】

大牟田の
「新たなファン」
「熱心なファン」
の獲得

シティプロモーション全体の 磨き上げ

キャッチフレーズ、ロゴマーク、キャラクター の活用

○キャッチフレーズは
「それなら、おおむた」



それなら、
おおむた

○特別市民へ登録、
おおむたわくわく隊長



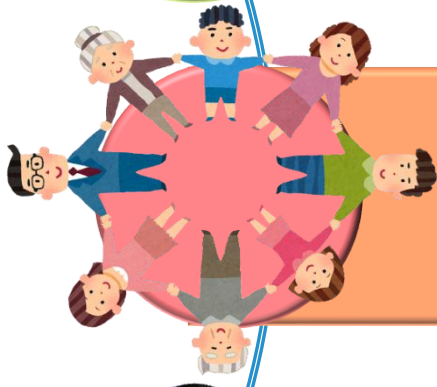
大牟田市公式キャラクター ジャー坊

これからの取り組みについて(まとめ)



わがまちの良さを 改めて実感

(大牟田の良いところ、好きなところの発見・再確認と新たな魅力づくり)



まち全体として 共有の思いや理解が必要

(行政や関係者だけでなく、全市的な活動へ)



一体感をもって 私たち一人ひとりが 担い手として活躍

(地道な積み重ねと 情熱的な市民営業マンの活動を)



- ・ **選ばれるまちおおむたの実現** (将来的な定住)
- ・ **わがまちへの愛着や誇りへの育み** (まちづくりの活力への発展)

(後半)

議会として取り組んだ主な事例

- 災害に係る対応の充実
- 空き地・空き家対策
- 市立学校エアコン設置状況
- まちづくり・活性化特別委員会の取り組み



災害時における要配慮者への対応に関する 『議会報告会での市民意見並びに決算特別委 員会での論議』

全議員により

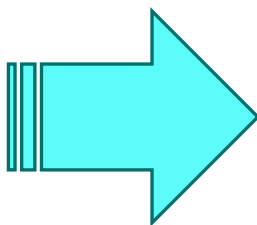
災害時における要配慮者への対応については、現場で活用できる名簿の作成と、関係団体等とも協議して、実態に即した実効性のある仕組みづくりに努められたい。



災害時における要配慮者への対応 に関する 市長からの回答



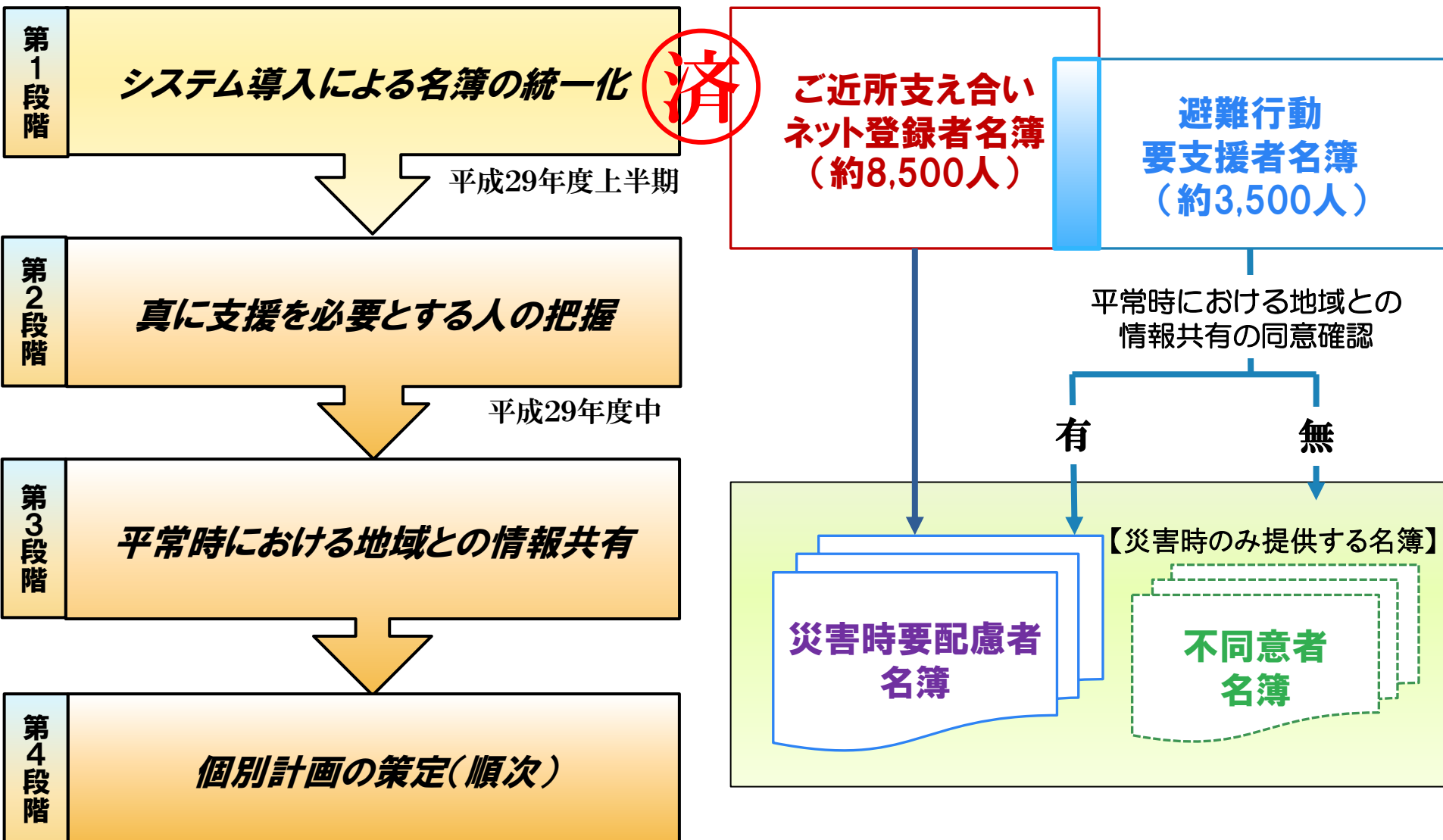
市 長



「災害時等要援護者支援制度(ご近所支え合いネット)」の名簿と、「避難行動要支援者名簿」のデータ統合を平成29年度上半期までに終える予定。

名簿の一本化は、日頃から地域で深く関わられている民生委員・児童委員や専門機関等とも協議しながら取り組んでいきたい。

災害時における要配慮者の円滑な安否確認や避難誘導に向けたイメージ



防災・減災の取り組み

H28年に発生した災害を受けて

要配慮者対策

- ◆福祉避難所の拡充（H29年度末まで）
- ◆避難行動要支援者への同意取得、個別計画の作成



福祉避難所一覧

特別養護老人ホーム 天光園
特別養護老人ホーム こもれび
介護老人福祉施設 美さと
特別養護老人ホーム サンホリデー
特別養護老人ホーム 昌普久苑
特別養護老人ホーム すぎの木
特別養護老人ホーム 延寿苑
特別養護老人ホーム サンフレンズ
特別養護老人ホーム サン久福木
大牟田恵愛園
あけぼの学園
大牟田市総合福祉センター

情報伝達手段の拡充

- ◆聴覚に障害をお持ちの方を対象とした「災害情報FAXシステム」を導入（H29年6月1日運用開始）
- ◆災害情報をフリーダイヤルで確認することができる「自動音声ガイダンス」を導入（H29年6月1日運用開始）

0800-805-1407



土砂災害の危険性が高くなっているため、
〇〇地区に避難勧告を発令しました。
避難所など近くの身の安全を守れる場所
へ避難してください。

避難所機能の強化

- ◆ 災害対策本部との通信手段の拡充（H29年5月配備済）
- ◆ 避難者が利用できる特設公衆電話の設置（24ヵ所設置）
- ◆ 自主避難所へのテレビ・毛布の配備（H29年5月配備済）
- ◆ 対応する災害種別を表示した避難所看板の設置
（H29年度末まで）
- ◆ 災害物資の備蓄（H30年度までに9,000食）



災害対策本部機能の強化

- ◆ 職員を対象とした訓練・研修など
- ◆ 受援計画の策定 （H29年度末まで）
- ◆ 災害対策本部運営マニュアルの作成
（H29年度末まで）
- ◆ 職員参集システムを導入
（H29年5月導入）



地域の防災力向上

- ◆地域の防災リーダー育成のため、防災士資格取得に向けて、防災士養成講座を開催（H29年11月開催予定）
- ◆全20校区で防災訓練等が実施できるよう継続した支援の実施



空き地・空き家対策

空き地とは・・・

市内に所在する現に人が使用していない土地（空家等を除く。）



空家等とは・・・

建築物又はこれに附属する工作物であって居住その他の使用がなされていないことが常態であるもの及びその敷地（立木その他の土地に定着するものを含む。）をいう。



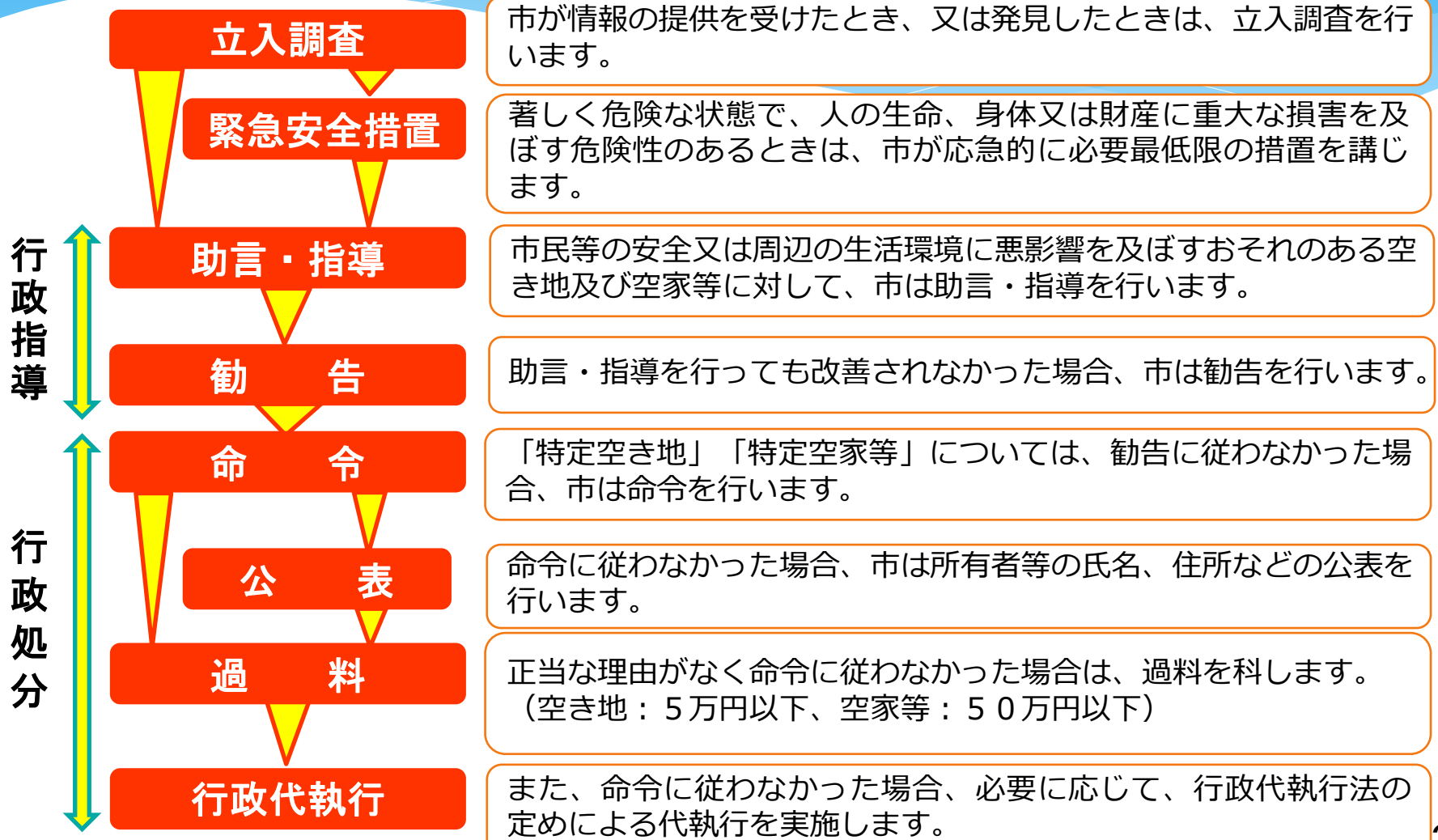
空き地及び空家等の適正管理に関する条例の特徴（5項目）

- 空家特措法が対象としない『空き地』も対象とした。
- 雑草等以外に『立木』も加え対象とした。
- 空家特措法にない『公表』の規定を設けた。
- 空家特措法にはない『緊急安全措置』の規定を盛り込んだ。
- 『大牟田市空き地及び空家等対策審議会』の規定を設けた。

本市の空き家の状況

調査年度	H28
調査目的	適正管理や利活用促進など空家特措法に対応した調査
調査対象	空き建築物（棟単位）
調査方法	外観目視調査
（詳細）	「地方公共団体における空家調査の手引き」（国土交通省住宅局）における空家の判断基準例に基づき、現地調査を実施。
計	2,662戸（100％）
Aランク	823戸（31％）
（判断基準）	管理に特段問題が無く、現状のまま利用可能
Bランク	902戸（34％）
（判断基準）	管理が行き届いていないが、比較的小規模の修繕で利用可能
Cランク	533戸（20％）
（判断基準）	倒壊の可能性はないが、現況のままの利用は困難
Dランク	404戸（15％）
（判断基準）	倒壊の可能性があるなど、現況のままの利用は不可能

適正管理条例施行後の 指導及び処分の流れ



大牟田市老朽危険家屋等除却促進事業

大牟田市が「老朽危険家屋等」と判定した家屋について、解体等に係る費用の一部を補助。

- * 大牟田市が「老朽危険家屋等」と判定し、条件を満たしたものに限る。所有されている建物で、近隣に迷惑をかけているが壊せず困っている方は、一度ご相談ください。
- * （中心市街地活性化エリア内は、最大60万円の補助額。）

補助額は、最大45万円！！

除却と処分等に要する費用に、2分の1を乗じた額以内で、45万円を限度。



適正管理条例施行後の状況

	H29年4月	H29年5月	H29年6月	計
相談件数	25	56	20	101
空き地	13	37	13	63
立木	10	9	2	21
草	3	28	11	42
空家等	11	12	5	28
立木	10	9	0	19
草	1	3	5	9
その他	1	7	2	10
立木	1	4	0	5
草	0	3	2	5
解決済件数	19	43	4	66
指導中件数	6	13	16	35
草刈機貸出件数	27	32	14	73

＊平成29年6月9日現在の件数

市立学校エアコン設置状況報告

平成26年3月に市立小中学校普通教室へのエアコン設置に関する議会決議以降、小学校から順次エアコン設置が進められています。

学 校 名	設置年	備 考
大牟田特別支援学校	H26年	
宅 峰中学校	H27年	学校再編整備事業（H27）で設置
全小学校	H28年	
宮 原中学校	H28年	学校再編整備事業（H28）で設置
松 原中学校 白 光中学校 歴 木中学校 田 隈中学校 橘 中学校 甘 木中学校	H29年	H29. 10末完了予定

H29年度は6校の工事を進めています。生徒の影響が少ない夏季休業期間から工事を開始し、10月末に設置を完了する予定です。

■まちづくり・活性化特別委員会の 総意としての意見・要望(17項目)



平成29年度予算案に関係し、早急な対応が必要と思われるもの(6項目)

- ① 保育料の本市独自の軽減措置や幼稚園就園奨励費補助など保護者の負担軽減
- ② 子どもの医療制度の拡充策
- ③ 出会いのサポートに関する施策
- ④ 学童保育所・クラブの機能拡充・ニーズ調査
- ⑤ 地域包括支援センターの体制強化
- ⑥ 健康いきいきマイレージ事業

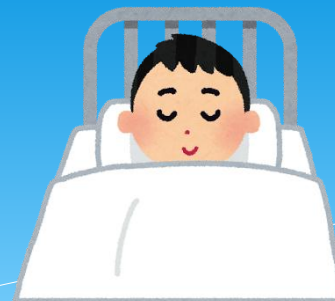
■平成29年度予算案に関係し、早急な対応が必要と思われるもの①

子どもの医療制度の拡充策



- 病後児保育事業を引き続き堅持し、病児保育事業についても取り組まれない。
- 小児科の平日夜間診療や休日当番医制度の新システムの構築も含め検討するなど、安定運営に向け、さらに支援強化されたい。

■当局からの回答・考え方等



病後児保育事業

→病後児保育事業を実施する医院に施設整備費用の一部を支援する予算を計上している。

病児保育事業

→病児保育時事業については、小児科医不足等により、新たな実施は厳しい状況にある。

平日夜間診療・休日当番医制度

→医師の高齢化や小児科医の減少は全国的な問題であり、本市においても現行制度では継続が厳しい状況にあるが、体制維持に向けて医師会等と検討を行っている

■平成29年度予算案に関係し、早急な対応が必要と思われるもの②

学童保育所・クラブの機能拡充、ニーズ調査

○学童保育所・クラブについては、的確な実情や市民ニーズの把握が重要であり、調査を実施されたい。

その際、利用時間の延長や長期休業時の利用に関する意向など調査項目を精査し、就学前児や全ての小学生を調査対象とし、広く意見を聴取されたい。



■当局からの回答・考え方等

学童保育所・クラブにかかる市民ニーズの把握

- 一定のニーズがあることは承知しているが、具体的なニーズは十分に把握できていない。
- 現在あらためて利用者アンケートを行っている。
- アンケートの集計や分析を行い利用時間の延長の希望や個人負担の限度など、保護者のニーズを把握し、保育園等の延長保育の利用状況も参考にしながら検討を進めたい。
- 平成30年度に就学前児童・全ての小学生へのニーズ調査を行う予定。（2月議会の答弁）



■その後の経過



平日夜間診療

- → 医師会の協力により、祝日を除く木曜日のみ市立病院で当番医を行う。他の曜日は従来通り。



学童保育所・クラブにかかる市民ニーズの把握

- → 平成29年3月の予算特別委員会において、全議員の総意として再度、要望を行った。
- → 平成29年7月の市民教育厚生委員会で、平成30年度に行う予定のニーズ調査を前倒して、今年度に行うとの説明あり。



■まちづくり・活性化特別委員会としての評価と対応



子どもの医療制度の拡充策

- 病後児保育については一定評価するが課題が残る。
- 病児保育については今後も実施の検討を続けるべき。
- 小児科の夜間診療については新システムが導入されたものの今後も関係団体等と協議していく必要がある。

学童保育所・クラブにかかる市民ニーズの把握

- 前倒しでニーズ調査は行われるが、今後も注視し、必要に応じて対応を協議していく。

ご清聴ありがとうございました。
皆様のご意見をお聞かせ下さい。

